

レースっていいよね

- 第8回 - 「番外!! 何故だ! 福野 礼一郎(呼捨てで失礼)」の巻

毎月楽しみにしている雑誌ってのがあります。オートスポーツ、レーシングオンは言うに及ばずその他ファッション誌などなど。その中に「GAINER」という雑誌があります。読者ターゲットは20代から30代の営業職系ビジネスマン向き…かな? その中のコーナーに自動車評論家 福野礼一郎氏の「見識あるモノ選び」というのがありました。～した…というのも、実は今月号(8月号)で最終回を迎えてしまったからです。

随分長い間の掲載でしたが、ここ4～5年の間この雑誌を買うたびに必ず読むコラムです。正直な話、毎回かなり文句を言いながら読んでいました。というのも、福野氏のモノの選び方について不満があったからです。例えば「工具はスナップオンに限る」とか「寸法精度こそ命、削りモノ最高」みたいな。かなり独断というか、偏見というか、偏ってるんですよ。もっとも彼のコラムだし、各々コダワリってのはあるものだから何を書いてもOK。それに、何を隠そうこの私だって充分偏ってるし。ただ、話の内容が私の生活とオーバーラップする事がとても多い上に、雑誌が雑誌だけに工業的な事なんてあまり関わらない、判断基準の無い読者相手に「これこそ一番」と言い切ってしまうのはどうかと。そう、さっきの工具の話にたとえるなら、私から見ればスナップオンしか持ってないヒトなんてただのお金持ち。所有する事だけに満足していると思えない。(所有する楽しみも別に悪くはないんですけどね…)確かにスナップオンは素晴らしい工具です。私も工具の多くをスナップオンから購入しています。

しかし、万能ではない。各工具メーカーにより設計・デザインが異なるから自分の必要とする作業に最も適し、最も自分の思い通りになる工具を選ぶのが大前提。だからホームセンターで買えるような安物工具が意外と大活躍する事もあれば、ちょっとした工業製品よりも遥かに高価で精密な工具を必要とする場合もある。だから必然的に工具箱の中は洋邦を問わず各種メーカー工具とお手製の工具で埋め尽くされる。私の場合、特殊な工具を買うよりも自分で作った方が早いと感じればすぐに改造してしまうから余り高価過ぎる工具だと手を入れにくくなるから、ある程度使用頻度が高く改造の必要が考えられるような工具はある程度安くて品質の良いものを揃えている。

工具にしろ何にしても要は適材適所、そしてローコストハイパフォーマンス。これが私のモットー!! なんですな。

だから福野氏とはかなり路線が違う。…とは言いつつ、たまに感銘を受ける事も書かれてるんです。一番印象に残ってるのはフィレンツェのダヴィデ像の話。これは良かった。

実は福野氏も自分で書いてるんですよ、モノを思うままにゴタクを並べ批判するのは至極簡単な事、でもモノを実際に作り出すのは奥が深く困難なことだと。全くその通り。

正直に白状します。このコラム、人には嫌いか言いながら実は大好きです。だって、面白いんだもん。いわゆるジェラシーってやつね、きっと。面白い文章書ける氏への。なんで終わってしまったの? 確かにあの雑誌の中で浮いてるページではあったけれど……GAINER 買う動機が無くなっちゃったよ。もっとも、GAINER 誌に言わせれば汗水流して汚い仕事の私なんかには読んでもらわなくて結構! とあっけなく蹴られるだろうけどネ。